

5 現体育施設の課題

上位関連計画にあるスポーツ振興の考えや社会体育施設、現体育館の現況、市民・スポーツ関係団体の意向等から現体育館の抱える課題を以下の通り整理しました。

① 体育館規模の拡大

アリーナや卓球室の予約状況は飽和状態となっており、新規の利用者が予約しづらい状態になっています。また、利用者数も増加傾向にあることから今後の更なる混雑が予想されます。さらには、予約の飽和により、スポーツ機会の提供ができていない状態が続けば、「スポーツ実施の諦め」の機運を高め、スポーツ実施率の低下に繋がる恐れがあると考えられます。

このため、こうした現状や利用者ニーズ等を踏まえ体育館規模の拡大を図る必要があります。

② 観客席の拡大

現体育館の観客席の規模は 348 席となっており、大規模な大会運営や多くの観覧が見込まれる半田市スポーツ大会（半田祭）等の大規模な各種イベントなどの誘致が難しく、スポーツ協会からは 2,000 席規模の観客席の確保の意向があります。

このため、スポーツを「観る」という観点から、大規模イベントなどにも対応可能な一定の観客席を持った体育館の整備が必要と考えられます。

③ 駐車場の確保

現体育館の駐車場は空の科学館、図書館、博物館と共同利用となっており、大会開催時には路上駐車をする利用者が多くなっています。

利用者の移動手段は基本的に自動車利用が多いことから、今後の利用者数拡大を図る上でも駐車場の確保が必要条件となります。

④ 体育館設備の拡充

現体育館には冷暖房設備がなく、夏場にはアリーナの室内温度は 35 度を超えることもあり、利用者の身体的負担に繋がっています。また、スポーツを実施する上でウォーミングアップをする場所の不足や「多くの種目の競技に対応できていない」との指摘もあります。さらには大会運営からみても安全で効率・効果的な運営ができる機能・諸室が配置できていない状況があります。

このため、こうした現状を踏まえ利用者ニーズや大会運営からみた機能・諸室、設備を備える必要があります。

⑤ ユニバーサルデザインの導入

現体育館には 2 階の観客席へ向かうエレベーターや多目的トイレが整備されていないなど、バリアフリー化が進んでおらず、高齢者や障がい者が利用しづらい状態となっています。また、1 階の諸室へ向かう動線が分かりづらい状況があります。

このため、施設配置や各種設備、機能の案内・誘導からみてユニバーサルデザインからみた改善が必要となっています。

⑥ 施設の老朽化対策

現体育館の築年数は 2025 年時点で 40 年となっておりますが、これまでに大規模改修工事は実施されておらず、安全快適に利用していくためには老朽化対策が必要となっています。

⑦ 多様化する利用者ニーズへの対応

国の計画においては、スポーツの力を活用して持続可能な社会や共生社会の実現に取り組むことが期待されています。スポーツの歴史や種類、ルール、知識を身につけ、情報を得ることで、人々の会話の話題となり、スポーツに親しむ機会も増え、賑わいや交流を促すこともできます。

このため、ダイバーシティ、インクルージョンの理念から誰もが安心してスポーツに親しめることを念頭に、多様化する利用者のニーズを踏まえてソフト（運営面）・ハード（施設機能）両面からみた各種対応が求められています。

⑧ 社会的ニーズへの対応

愛知県では 2019 年に国から「SDGs 未来都市」に選定されたことを受け、「愛知県 SDGs 未来都市計画」を策定し愛知県全体で SDGs の達成に向けた取組を推進しており、本市においても総合計画を始め各個別計画では各施策と SDGs の目標を関連付け施策を推進しています。

このため、省エネや脱炭素への対応やデジタル社会への対応など多様な取組みが求められています。さらには、体育館は非常時における避難所機能も有しており、こうした社会的ニーズへの対応が求められています。